

8/8 未

医療保険財政を圧迫

①

49万円という薬価(国が決める公定価格)の国内最高記録が、大幅更新する事態が迫っています。その額なんと1回2億円超もする新薬が現れたのです。米国は5月末に国内での販売を承認しました。日本も年内に承認する可能性があり、公的医療保険財政をさらに圧迫する懸念が高まっています。

(松田大地)

医療保険財政を圧迫

新たな超高額薬は、スイスの製薬大手ノバルティス社の「ゾルゲンスマ」。難病の脊髄性筋萎縮症(SMA)に使う遺伝子治療薬で、米国は2歳未満の子どもを対象に承認しました。日本は、1回の投与で済みますが2億3千万円もします。日本は、これまでに進むことになります。

米子会社が開発した「ゾルゲンスマ」。難病の脊髄性筋萎縮症(SMA)に使う遺伝子治療薬で、米国は2歳未満の子どもを対象に承認しました。日本は、1回の投与で済みますが2億3千万円もします。日本は、これまでに進むことになります。

新たな超高額薬は、スイスの製薬大手ノバルティス社の「ゾルゲンスマ」。難病の脊髄性筋萎縮症(SMA)に使う遺伝子治療薬で、米国は2歳未満の子どもを対象に承認しました。日本は、1回の投与で済みますが2億3千万円もします。日本は、これまでに進むことになります。

【表①】新たな超高額薬の例

| 製品名 | 米国での費用 |
|-------------------------|------------------|
| ゾルゲンスマ (脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療薬) | 約2億3000万円 (1回投与) |
| ラクスター (網膜疾患の遺伝子治療薬) | 約1億円 (両眼に1回投与) |
| イエスカルタ (リンパ腫の遺伝子治療薬) | 約4000万円 (1回投与) |

【表②】キムリアの薬価の内訳

| | |
|------------------------|--------|
| ① 製品総原価 (原材料費や研究開発費など) | 2363万円 |
| ② 営業利益 | 414万円 |
| ③ 流通経費 | 68万円 |
| ④ 消費税 | 228万円 |
| ⑤ 補正加算 | 277万円 |
| ①+②+③+④+⑤= | 3349万円 |

※千円単位は四捨五入のため合計は合いません

ば、患者負担の上限制度によって薬剤費の大半を保険財政で賄うことになります。

情報公開度低く

日本で5月に保険適用され

たキムリアは、薬価算定=表

②の際、「製薬企業の言い

い」である製品総原価の情報

開示度が最低ランクの50%未

満でした。80%以上開示され

ば、補正加算制度によって1

高い値付けになつてると批判が出ています。厚生労働省の薬価算定組織の坪井正博委員長も「ブラックボックスが大きくて困っている」(5月の中央社会保険医療協議会)と発言しています。

高すぎる薬価の是正は、世界的な問題になっています。

スイスで5月に開かれた世界保健機関(WHO)総会では、

高額化による財政負担や、医

療サービスへのアクセスが不

平等になつてることを深刻

に懸念しているとして、医薬

品価格の透明性の改善を目指

す決議が採択されました。

一方、製品総原価に含まれ

る研究開発費などの透明化

は、決議原案から削除されま

回33349万円の薬価が一千万円以上高くなつたにもかかわらずです。

品総原価の実態を隠そっとするノバ社の姿勢に対し、「言

い値」は適正ではなく過剰に

わざです。

1千万円安くなつても製

薬給付の縮小です。湿布薬や

保湿剤を念頭に置いた患者負

担の引き上げ案や、「費用対

効果」の名で高額薬を保険対

象外にする案の検討を進め、

自己責任の押し付けを強化し

ようとしています。

必要なのは、国民に安全・

安心の医療を保障すること

です。製薬大企業の優遇ではなく、過剰な利益構造に抜本的

メスを入れて高薬価を引き下

げる道への転換が求められ

ています。

すでに医療界では、製薬大

企業による「マネーマー

ニ

を追及する声が出ていま

(つづ)